

愛媛の家計

— 2008年家計調査報告書 —

社団法人 愛媛県労働者福祉協議会
えひめ勤労者生活情報センター

はじめに

えひめ勤労者生活情報センターと愛媛県生活協同組合連合会とが協同して1996年1月より「家計における問題点を把握するための基礎データを作成すること」を目的に家計調査を実施した。

1996年当初は、分析対象になる調査件数100世帯を目標にした。次の年の1997年には月平均100世帯になり、2000年には月平均150世帯を越え、当調査の2008年には月平均192世帯の協力を得た。

さらに本年は、年金受給者世帯の家計を調査し生活実態を把握することにより、県民の福祉の向上や生活諸問題に対する対策のための基礎資料の作成を目的に特別調査を実施した。調査を実施するにあたっては、愛媛高齢・退職者団体連合、年金者組合、愛媛医療生協、松山医療生協、新居浜医療生協、コープえひめ等の各団体にご協力いただいた。

本報告書は、Ⅰ部に従来の2008年1月から12月までの調査結果を、Ⅱ部に年金受給者世帯の調査結果をまとめたものである。

労働団体や福祉事業団体など愛媛に在住する人たちが本報告書のデータをさまざまな面から活用いただければ幸いである。

最後に、本調査を実施するにあたりご協力いただいた、関係各位に深く感謝します。

2009年3月

社団法人 愛媛県労働者福祉協議会
えひめ勤労者生活情報センター
理事長 木原 忠幸

目 次

－ I 部 2008 年生計費調査結果－

I	調査要項と調査世帯の概要	1
II	全世帯の家計収支	5
III	世帯主の年齢階級別家計収支	12
IV	世帯主職種別家計収支	14
V	世帯人員別家計収支	19
VI	住宅ローン返済世帯の家計収支	22
VII	1世帯当たりの教育費	27
VIII	交通・通信費について	30
IX	自動車関係費について	32
X	介護保険料について	34
XI	貯蓄について	35

2008年 家計調査集計表

表1 全世帯月別家計収支

1	調査対象世帯の属性	36
2	月平均家計収入	36
3	月平均家計支出	38

表2 世帯主の年齢階級別月平均家計収支

1	調査対象世帯の属性	40
2	世帯主の年齢階級別家計収支	40
3	世帯主の年齢階級別家計支出	41

表3 世帯主の職種別月平均家計収支

1	調査対象世帯の属性	42
2	世帯主の職種別家計収支	42
3	世帯主の職種別家計支出	43

表4 世帯人員別月平均家計支出

1	調査対象世帯の属性	44
2	世帯人員別家計収入	44
3	世帯人員別家計支出	45

表5 地域別月平均家計収支

1	調査対象世帯の属性	46
2	地域別家計収入	46

3	地域別家計支出	47
表6	住宅ローン返済の有無および住宅状況家計収入	
1	調査対象世帯の属性	48
2	住宅ローン返済の有無および住居状況別家計収入	48
3	住宅ローン返済の有無および住居状況別家計支出	49

費目分けの説明・調査票

一 II部 年金受給者世帯の生計費調査結果一

I	調査要項と調査世帯の概要	55
II	調査結果の分析	
1	1年間の年金収入	56
2	年金受給者世帯の税金	58
3	年金受給者世帯の社会保険料	59
4	年金受給者世帯の1ヶ月の消費支出	60
5	現在の暮らしについて	61
6	節約したいと思っている費目	65
7	生活費の不足分の補填について	65
III	年金受給生活についての意見	
1	年金について	66
2	税金について	69
3	社会保険について	69
4	消費支出について	70
5	暮らしについて	71
6	節約について	73
7	雇用について	73

2008年 生計費特別調査（年金受給世帯の生計費）集計表

1	年間の収入	74
1	年間の税金や社会保険料	75
1	1ヶ月の主な消費支出	75
	生活満足度	76
	節約している費目	77
	生活費の不足分のまかない方	78

調査票

I 部 2008年生計費調查結果

I 調査要項と調査世帯の概要

1 調査要項

(1) 調査目的

愛媛県内の家計の実態を継続的に調査することにより、各世代の生活諸問題に対する対策のための基礎資料を作成する。

(2) 調査機関 (社) 愛媛県労働者福祉協議会 (えひめ勤労者生活情報センター) 愛媛県生活協同組合連合会

(3) 調査世帯

愛媛県に在住する世帯

(4) 調査事項

主な調査項目は次のとおりである。

- ①毎月の収入
- ②毎月の消費支出
- ③毎月の非消費支出
- ④毎月の特別支出および特別収入
- ⑤毎月の預貯金額
- ⑥毎月の借入金返済額

(5) 調査時期 2008年1月～12月

(6) 調査方法

調査票の配布、回収とも郵送、毎月回収、自記入方式

(7) 2008年1月～12月の回収状況

単位：世帯

年間延べ回収数	月回収平均値	最高月回収数	最低月回収数
2, 302	192	196	185

2 調査世帯の概要

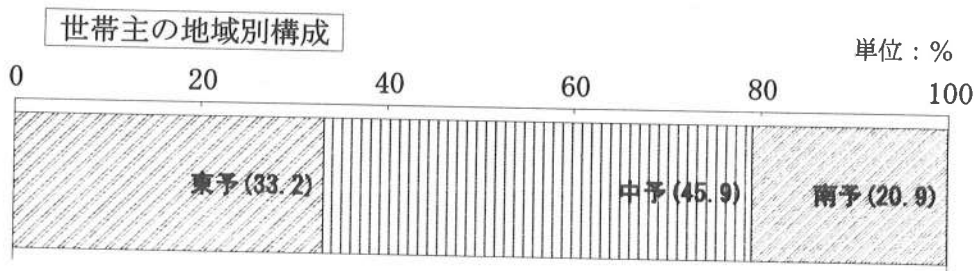
本調査は、愛媛県内に在住する世帯を無作為に抽出し、調査票を配布・回収したものである。回収した調査票のうち、2008年の集計および分析の対象となりうる有効調査票は年間延べ2,302件であった。

以下、調査世帯の基本的属性および特徴について概説する。

(1) 調査世帯の地域別構成と世帯主の年齢別構成

有効調査票の月平均は192件である。そのうち東予が33.2%、中予が45.9%、南予が20.9%である。

前年調査では、東予が30.3%、中予が45.7%、南予が24.0%であったので、2008年では東予が2.9ポイント増、中予が0.2ポイント増、南予が3.1ポイント減である。

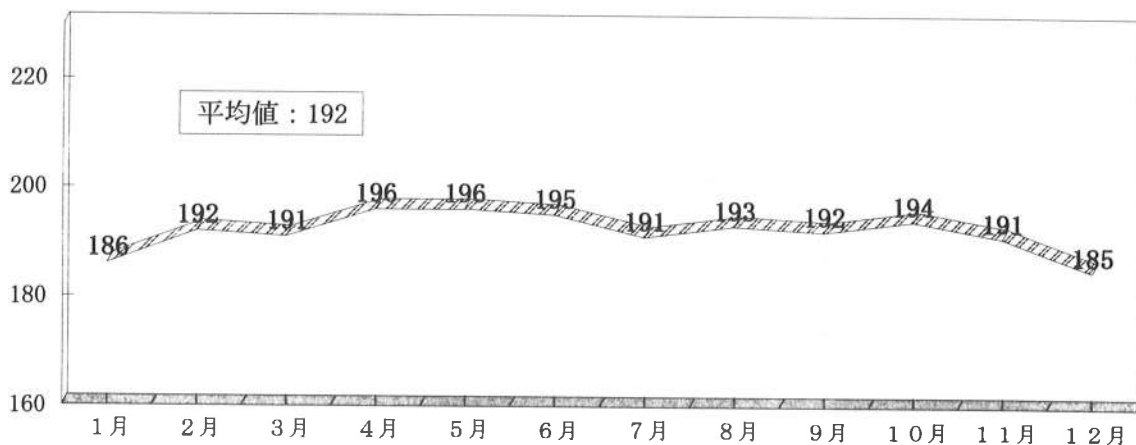


本調査報告書においては、提出世帯間のデータの均衡を図るため月々の提出数が年間通して10ヶ月分以上ある世帯を分析対象としている。年間提出数が10ヶ月より少ない調査票については、削除させていただいた。また、提出されていても消費支出が全く記入されていないか、非消費支出も必要な記入がされていない場合の調査票は提出件数にカウントしていない。

月々の調査世帯数の変化をみると、最も多いのは4月と5月の196件で、最も少ないのは例年通り12月で185件である。12月は年末であるので家計も日々の生活もめまぐるしく記録がままならない日が多いのであろう。また、12月の提出は1月に入るため、1年が終わったという勘違いもあるのかもしれない。

年末の12月に続いて少ないのは1月の186件で、それらを除けば平均的に毎月190件強の調査票提出数となった。

(人) 月別調査票提出者数



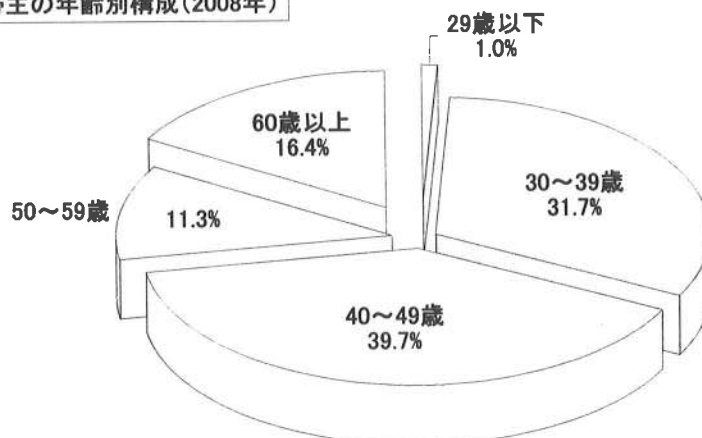
世帯主の年齢別調査票提出は、「29歳以下」:22件、「30～39歳」:730件、「40～49歳」:914件、「50～59歳」:259件、「60歳以上」:377件である。構成比で見ると、年齢層の若い順に約1.0%、31.7%、39.7%、11.3%、16.4%である。したがって、最も多い年齢層は「40～49歳」で全体の4割近くを占めている。「40～49歳」と「30～39歳」を合わせると、7割強である。「29歳以下」は1.0%ほどしかなく、分析対象とするには提出者数が少なかった。

世帯主の平均年齢は45.5歳である。前年も45.5歳であったので変化はない。最年少は28歳、最高は86歳である。

世帯主の年齢別構成(2008年)

	合計	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
実数値(人)	2302	22	730	914	259	377
構成比(%)	100.0	1.0	31.7	39.7	11.3	16.4

世帯主の年齢別構成(2008年)



(2) 生計を共にする家族数と家族構成

調査世帯の平均家族数が3.8人である。

1人家族は月平均6世帯で、2人家族が月平均約30世帯、3人家族が約29世帯、4人家族が78世帯、5人以上家族が49世帯である。

構成比を見ると、1人家族が3.1%、2人家族が15.6%、3人家族が15.1%、4人家族が40.6%、5人以上世帯が25.5%である。

1人家族の内訳は「29歳以下」:0.0%、「30～39歳」:15.9%、「40～49歳」:17.4%、「50～59歳」:0.0%、「60歳以上」:66.7%である。したがって、1人家族は世帯主が60歳以上に多い。

2人家族の内訳は「29歳以下」:0.0%、「30～39歳」:3.1%、「40～49歳」:23.2%、「50～59歳」:25.1%、「60歳以上」:48.6%である。したがって、2人家族も1人家族と同様、世帯主が60歳以上に多い。

3人家族の内訳は「29歳以下」:3.2%、「30～39歳」:26.4%、「40～49歳」:33.9%、「50～59歳」:25.3%、「60歳以上」:11.2%である。

4人家族の内訳は「29歳以下」:0.0%、「30～39歳」:44.9%、「40～49歳」:41.5%、「50～59歳」:13.7%、「60歳以上」:0.0%である。

5人以上家族の内訳は「29歳以下」:1.9%、「30～39歳」:33.2%、「40～49歳」:53.0%、「50～59歳」:12.0%、「60歳以上」:0.0%である。

家族人数別世帯主の年齢構成

単位:%

	合計	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
1人	100.0	0.0	15.9	17.4	0.0	66.7
2人	100.0	0.0	3.1	23.2	25.1	48.6
3人	100.0	3.2	26.4	33.9	25.3	11.2
4人	100.0	0.0	44.9	41.5	13.7	0.0
5人以上	100.0	1.9	33.2	53.0	12.0	0.0

(3) 世帯主の居住状況

居住状況を構成比で見ると、最も多いのは「自分の家に住んでいる人」で、全体の73.8%である。続いて多い順に、「民間賃貸」16.1%、「社宅・官公舎」5.9%、「公営賃貸」4.2%である。

居住状況

単位:%

	合計	自家	社宅・官公舎	公営賃貸	民間賃貸
実数値(人)	2302	1700	135	97	370
構成比(%)	100.0	73.8	5.9	4.2	16.1

(4) 世帯主の職業

世帯主の職業で最も多いのは、「会社員」(72.2%)である。続いて多い順に「公務員」(12.5%)、「無職」(8.6%)、「自営業等」(6.7%)、である。「無職」のほとんどは年金生活者で60歳以上である。

世帯主の職種状況

単位:%

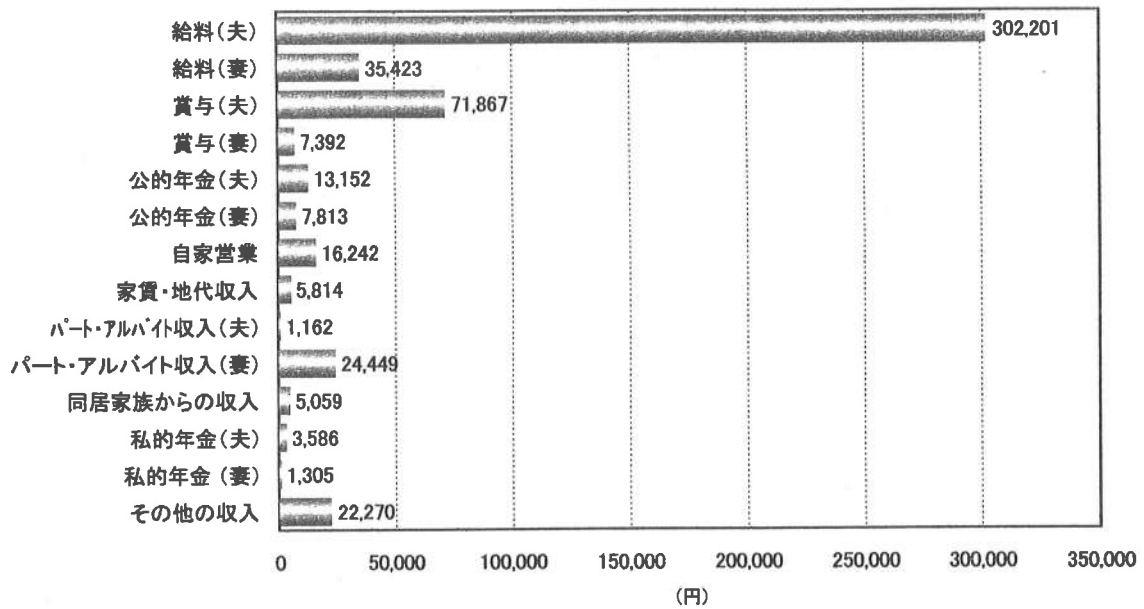
	合計	公務員	会社員	自営業等	無職
実数値(人)	2302	287	1663	154	198
構成比(%)	100.0	12.5	72.2	6.7	8.6

Ⅱ 全世帯の家計収支

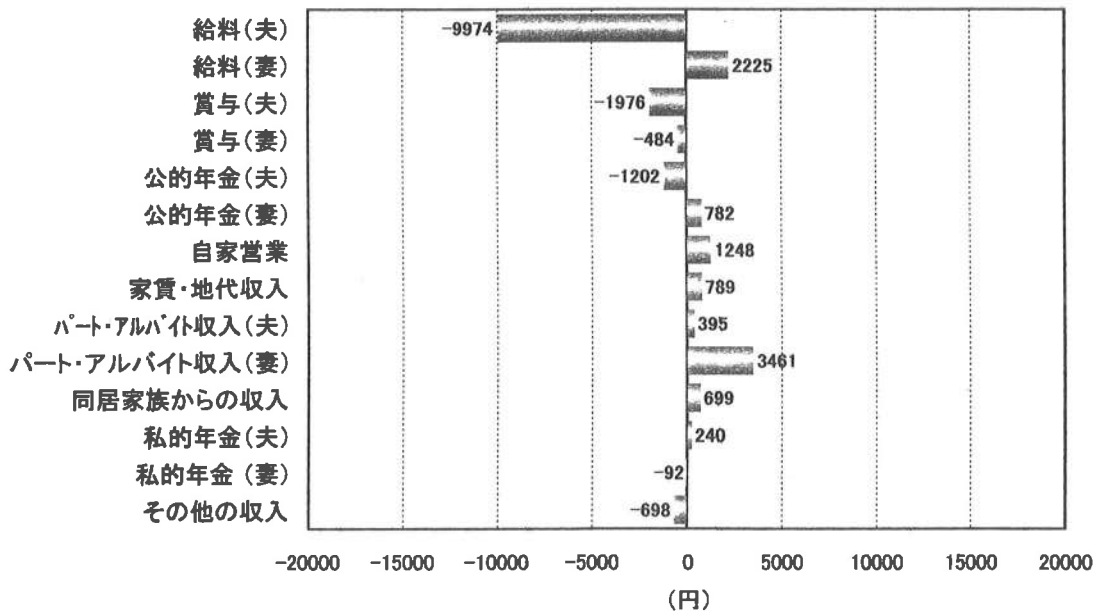
1 全体の概要

(1) 2008年の1年間に提出された家計調査の調査票のうち、集計及び分析が可能な世帯数は昨年と同じで月平均192世帯であった。世帯主の平均年齢は45.5歳で平均家族数は3.8人である。

実収入の内訳(2008年 月平均額)
実収入517,734円



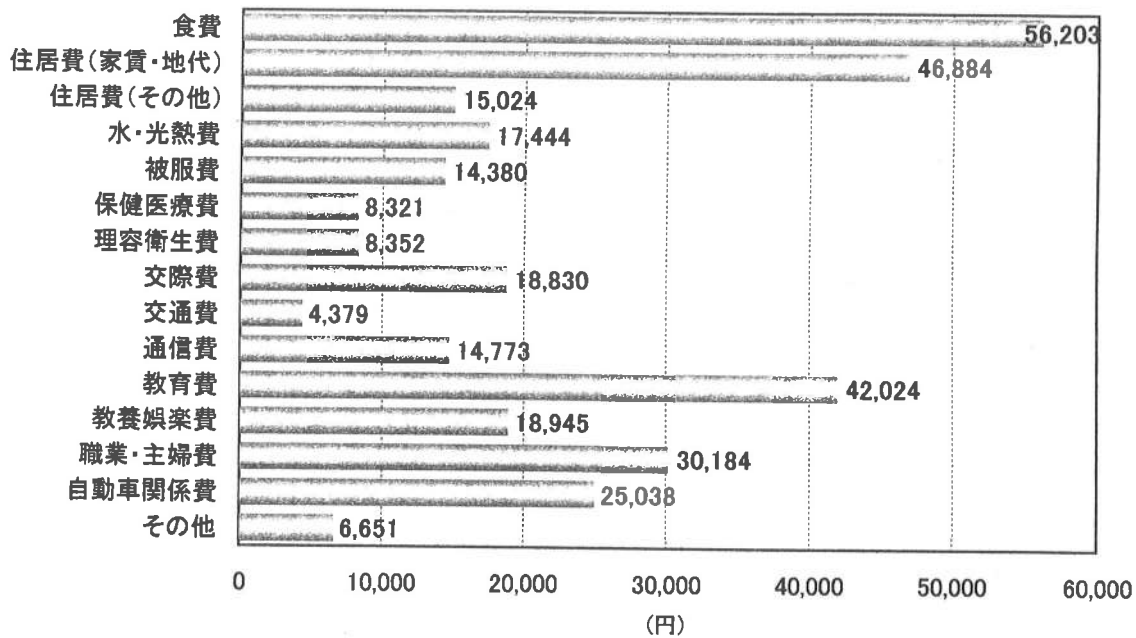
収入科目の対前年増減額(2008年 月平均額)



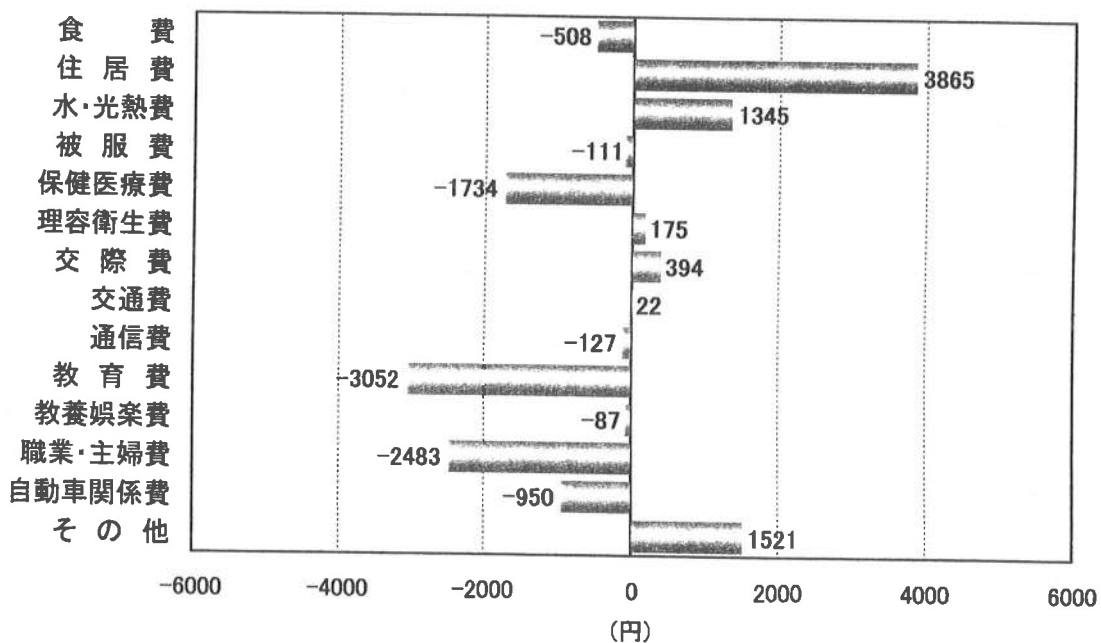
(2) 全世帯の実収入は、1世帯あたり月平均は517,734円で、前年にくらべて4,588円の減少である。
2005年以降減少傾向である。

収入のうち最も大きい「給料(夫)」(月平均:302,201円)は、前年に比べて9,974円減少している。
「賞与(夫)」(月平均:71,867円)は、前年に比べて1,976円減少しており、2001年以降年々減少傾向にある。2001年に比べると24,753円減少しており、約25%の減少である。

消費支出の内訳(2008年 月平均額)
消費支出327,432円



消費支出科目の対前年増減額(2008年 月平均額)



月平均家計収支の推移(2000年～2008年)

		2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
対 象 者	調査票提出世帯数	170	166	169	182	174	199	208	192	192
	世帯主年齢(歳)	41.3	42.0	41.4	42.7	42.9	43.3	43.8	44.5	45.5
	平均家族数(人)	3.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	3.9	3.8	3.8
収 入	実 収 入	577,262	573,497	538,961	538,709	533,712	545,603	539,694	522,322	517,734
	給 料 (夫)	346,025	359,133	331,967	328,302	322,777	330,807	331,938	312,175	302,201
	賞 与 (夫)	96,127	96,620	85,405	83,119	81,293	81,149	78,105	73,843	71,867
	妻の給料・賞与、 自家営業収入、 公的・私的年金など	113,486	94,622	98,657	104,157	106,258	107,269	103,765	113,336	121,396
	その他の収入	21,624	23,122	22,932	23,130	23,382	26,379	25,887	22,968	22,270
支 出	実 支 出	514,358	505,904	484,888	480,217	477,959	484,892	492,791	472,715	473,419
	消 費 支 出	359,479	351,587	335,629	333,740	335,791	335,536	343,929	329,164	327,432
	食 費	61,523	60,145	57,187	55,926	56,264	56,671	57,119	56,711	56,203
	住 居 費	68,919	65,962	66,372	66,472	63,121	61,867	63,150	58,043	61,908
	水・光熱費	16,274	16,267	16,698	15,699	16,278	16,433	17,108	16,099	17,444
	被 服 費	17,917	16,620	14,837	14,660	15,103	15,380	17,115	14,491	14,380
	保 健 医 療 費	7,358	8,425	8,026	9,136	9,895	9,559	9,667	10,055	8,321
	理 容 衛 生 費	8,577	8,584	8,032	8,405	8,491	8,101	8,062	8,177	8,352
	交 際 費	21,433	20,952	17,501	19,622	19,185	18,377	18,495	18,436	18,830
	交 通 (通 信) 費	13,868	14,693	4,196	4,637	3,900	4,781	4,505	4,357	4,379
	通 信 費	-	-	12,140	12,647	13,195	14,090	14,692	14,900	14,773
	教 育 費	46,014	44,419	40,359	36,277	44,663	44,764	49,128	45,076	42,024
	教 養 娯 楽 費	21,359	20,794	20,639	21,009	19,932	19,488	18,973	19,032	18,945
	職 業 費 ・ こ づ かい	40,197	38,634	36,216	35,065	34,322	34,349	33,441	32,667	30,184
	自 動 車 関 係 費	24,070	23,923	22,891	23,187	23,246	26,417	26,992	25,988	25,038
	そ の 他	6,477	6,507	5,120	5,945	6,381	5,257	5,483	5,130	6,651
	消 費 税	5,493	5,665	5,413	5,052	1,814	-	-	-	-
	非 消 費 支 出	154,879	154,318	149,260	146,478	142,169	149,356	148,862	143,551	145,987
	税 金	34,218	34,853	31,060	30,025	30,822	33,281	34,144	31,998	33,900
社 会 保 険 料	53,095	53,355	52,403	55,681	52,557	54,608	55,020	53,007	55,265	
私 的 保 険 料	60,762	54,058	56,598	51,985	50,208	53,282	50,873	49,324	49,196	
その他の非消費支出	6,804	12,051	9,199	8,787	8,581	8,186	8,824	9,223	7,625	
可処分所得	422,383	419,179	389,701	392,231	391,543	396,247	390,832	378,771	371,747	
平均消費性向	85.1	83.9	86.1	85.1	85.8	84.7	88.0	86.9	88.1	
積立・定期預貯金	71,582	63,029	54,438	58,836	51,934	50,501	50,154	42,860	35,263	

(3) 実支出は消費支出と非消費支出からなる。

実支出は1世帯あたり月平均473,419円で、前年に比べて704円の減少である。

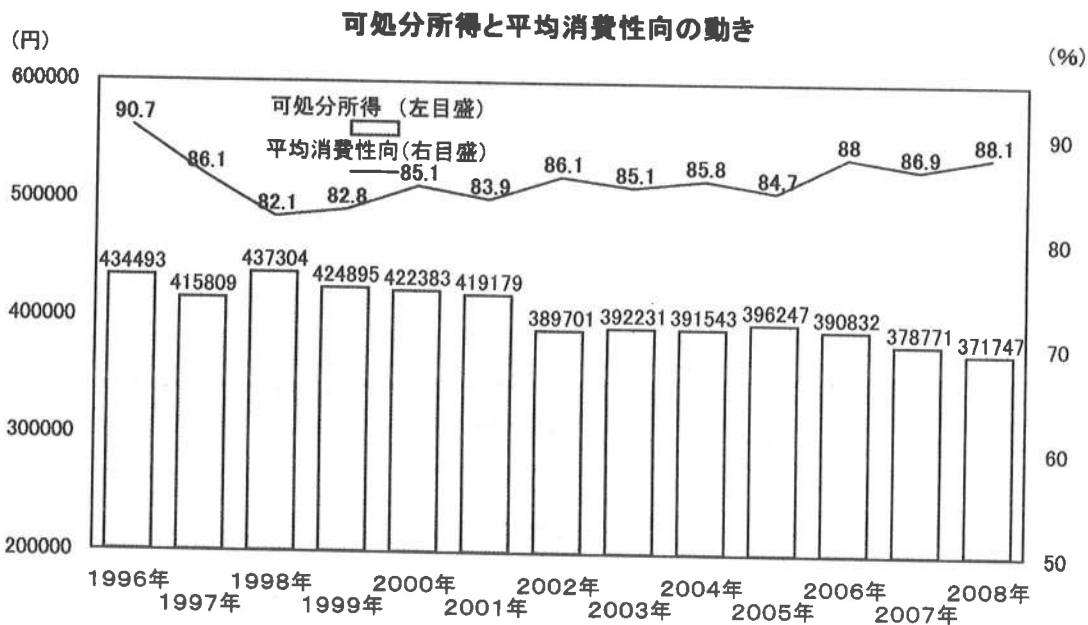
(4) 消費支出を押さえざるを得ない家計の中で、支出増を余儀なくされた消費項目は「水・光熱費」であり、昨年に比べて月平均1,345円の増加である。昨年の燃料費の高騰が影響しているものと見られる。

増加傾向にあった「通信費」は少額(前年比127円減)ではあるが減少に転じた。

(5) 非消費支出は月平均145,987円で、前年に比べて2,436円の増加である。「社会保険料」の増加が影響していると考えられる。

(6) 可処分所得(実収入－非消費支出)は1世帯あたり月平均371,747円で前年に比べて7,024円の減少である。

平均消費性向(可処分所得のうち消費に回る割合)は88.1%である。2000年以降最も大きい割合になっており本年も厳しい家計であった。



2 2008年の月別傾向

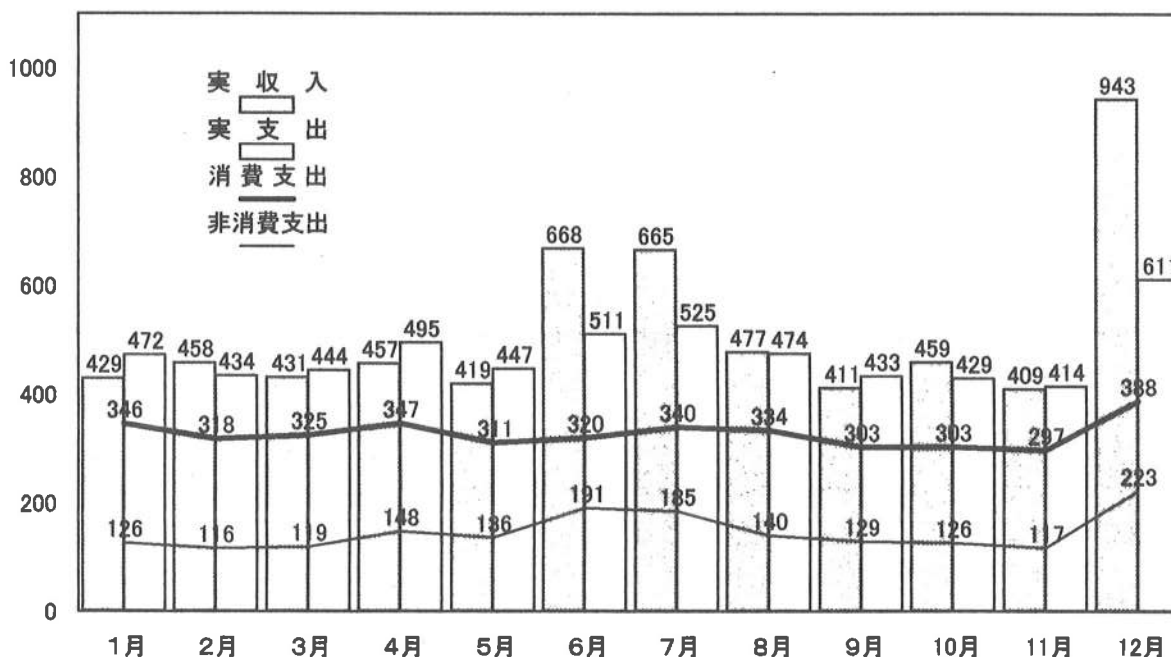
(1) 1世帯あたりの実収入は月平均額が517,734円で、ボーナス支給月の6月、7月、12月に多くなっている。最低の月は11月で409,376円であり、最高の月は12月で942,974円である。

(2) 統計に表示された自家営業収入の全世帯の1世帯あたり月平均は16,242円である。自家営業世帯のみの1世帯平均収入は約30万円である。この金額は自営業収入額ではなくこれだけあれば生活ができるというものであり、自営業収入の生活費としての配分額である。

(3) 実支出は1世帯あたりつき平均473,419円である。月々の収入より支出が上回っているのは、正月に当たる1月、就学の準備に当たる3月、学費納入の4月5月、比較的収入が少ない9月11月である。

「消費支出」はローン支払いの多い12月が多く、「非消費支出」ではボーナスの額に応じて支払う税金、社会保険料がその12月の支出を押し上げている。

(千円) 月別家計収支(2008年)



(注) 図の金額は10円の位を四捨五入し、千円の単位で表示している。

3 若干の考察

全世帯の消費支出は327,432円で実収入の落ち込みに連動して前年より1,732円減少した。

収支の差額は前年より5,291円少ない44,315円であった。収支の差額を縮めた大きな要因は非消費支出、特に社会保険料の増加であった。

社員の賞与1人あたり月平均が76,354円であり、収支差額(実収入531,872円 - 実支出475,997円)より20,479円オーバーしており、したがって、月の赤字をボーナスで補填するという傾向は本年も同じである。

調査世帯全体を見ると、前年に比べて収入が減少したにもかかわらず支出が増えた厳しい家計であった。特に年末の原油価格高騰による影響が消費生活に大きく影響した。そういった中で特に節約した消費項目は「職業費・こづかい」、「教育費」、「保健医療費」「自動車関係費」であり、「食費」「被服費」「通信費」「教養娯楽費」の削減にも努力した1年であった。

可処分所得(実収入から非消費支出を引いた額)は月平均371,747円で前年に比べ7,024円減少しており、2000年以降減少の一途をたどっている。それに連動して「積立・定期預金」も減少しており、前年に比べて月平均7,597円減少し、前々年(2006年)より14,891も減少している。

平均消費性向(可処分所得に対する消費支出の割合)は88.1%であり、全国平均よりかなり高

く、しかも前年より 1.2 ポイント減少している。

エンゲル係数（消費支出に占める食料の割合）は 17.16 であり、全国平均（2007 年 23.0）よりかなり下回っている。現在の社会ではエンゲル係数はもはや生活水準の判断基準にはならないが消費構造の変化を見るには有効である。当調査対象の場合はより食費を切り詰めようとする努力の結果であろう。

以下、当生計費調査のモニターさんの声をページの許す範囲で紹介する。スペースの都合で若干ですが略させて頂いています。

1月のお便りから

☆ 今回のモニターは家計の見直しを目標に希望しました。食費はあらかじめ一日 1300 円以内と厚労省の栄養素の食事摂取基準をベースに設定し、買い物の際に気をつけながらやりくりするようにしてみました。実際は一日あたり 1900 円になってしまったので、来月は財布の紐を締めつつ、栄養管理に気をつけたいと思います。年始で余分な出費が多くなった一ヶ月でしたが、3月は車検もあるので家計を見直していきたいです。（32歳）

2月のお便りから

☆ ガソリン代があまりにも高いので2月という寒い時期にもかかわらず最近自転車をよく使うようになりました。出かける際、耳当てをし、サングラスをかけダウンを着て自転車をこぐと目的地につく頃はものすごく身体があたたまって暑いくらいです。運動不足解消にもなり、体重も1kg落ちました、これぞ一石二鳥!!(38才)

3月のお便りから

☆ 来月から長女が幼稚園年少さんです。通勤族なので、制服は知り合いに声をかけて頂いたり、お名前シールも自分で作ったりしているのですが、節約したいけど親も子もドキドキワクワクに準備も楽しいので、お財布の紐がゆるみがちだったかも？加えて結婚式&交通費、お祝い etc がかさみ、年度末の締めのもりが本意でした。来月からは今以上に頑張ります。（34歳）

4月のお便りから

☆ 生命保険の個人年金に3万円以上月額で払うので、さらに節約に励みます。もうすぐ40才、20年なんて「あっ」という間でしょう。20年前に瀬戸大橋ができたことを考えたら…。今から貯えなくては。（39歳）

5月のお便りから

☆ 歯止めがかからないガソリン代の値上げの毎日。毎週子どもたちが楽しみにしている日曜日の家族のお出かけも、もっぱらエコライフです。今までは必ず車で出かけていましたが、最近は家族4人自転車で連なって図書館へ行ったりプールへ行ったり。たまに電車を使って買い物へ。もちろんエコバッグ持参で。公共の交通機関をほとんど利用したことがない子ども達にとっては、良い体験になっています。もしガソリンが安いままだったら経験してなかったことが沢山あるな一と感じさせられる今日このごろです。（31歳）

6月のお便りから

☆ 収支累計がマイナス 130 万です。夏に向けて菓子、飲み物を買いました。世間の値上げのうわさで安いうちに日持ちのするものは多めに買いました。もっとしめていかなければ、首がしまっちゃいますね。来月はボーナスだ！閉めなければ!! (39歳)

7月のお便りから

☆ 5人家族の我が家はお茶を毎日6~8杯沸かしています。一晩冷蔵庫で冷やしてから、大きな水筒にたくさんの氷と共にに入れて、食卓に置いています。5人バラバラに「お茶〜」って冷蔵庫を何度も開けなくて済んでいるし、冷蔵庫より格段に冷たくておいしいです。(36歳)

8月のお便りから

☆ 6年生の長男は毎日、釣りと、ソフトボールかサッカー、次男は昆虫採集と田舎のおかげでお金をかけずに遊んだ。自然の中で遊ぶ力も節約に繋がる。風通しが良いので、お盆のお客さんに扇風機をつけただけである。県外に進学した長女も、朝5:00~9:00 コンビニでアルバイトをしているので仕送りは月2万円。高2の次女もまだ携帯を持たずに高校生活をエンジョイしている。子育てに、無駄なお金を使いたくないポリシーだけは実現している。(43歳)

9月のお便りから

☆ 今年の夏はとても暑く頭がおかしくなるようでしたが、地球を守ろう！と我が家ではクーラーは全くつけませんでした。・・中略・・日中は、おしぼりを片手に、アイスクューブを口に含み、寝るときは扇風機とアイスノンでなんとか乗り切れました。ちなみに電気代は8月は(5101円、230kwh) 9月は(4138円、191kwh) ガスは使っていません。(71歳)

10月のお便りから

☆ 15年乗っていたカローラを買って換えました。今回は軽四にしてもらいました。・・中略・・大学2年生の長男もいるし、家で一緒に住んでいる長女は1万円しか家に入れていませんので、養っているようなものです。ムダ使いせず貯金にまわしてもらいたいものです。(42歳)

11月のお便りから

☆ 今月から、住宅ローン3年固定が終わり、新たに3年固定に入りました。毎月の返済が1万円以上に増え、ますます生活が苦しくなりました。子どもも病気で1ヶ月入院、旦那も転職して給料が5万円も下がりました。身を削らないとやっていけません。(26歳)

12月のお便りから

☆ 先月から仕事を始めました。パートとはいえ、仕事は忙しく、そのお給料も頂けてうれしいのですが、家との両立がなかなか思うようにいかず、ストレスでお菓子を買ってしまうり、収入UPしても支出もUPしている現状です。これからも続けて仕事をするに当って、家庭との両立は何かしてやり遂げたいのですが…ぼちぼちやっていくのがいいかなと今は思っています。それにしても世の中の仕事と家庭を両立している方々、本当に頭が下がります!!来月(2009年から)は、支出を抑えて少しでも収入を貯蓄に回していきたいです。(35歳)